B－8

地域と学校のネットワーク化をめざした スポーツ活動の実践的戦略

―――――― フライング・ディスク・ゴルフの展開を事例として ――――――

○宮下桂治（順天堂大学）木村博人（順天堂大学嘱託）戸田安信（船橋市自遊人協会）

スポーツ戦略・フライングディスクゴルフ・ネットワーク

Ⅰ、はじめに

社会の変化に伴い、地域や学校のスポーツ活動にも変化が見られる。したがってその問題点を探り解決策をこうじることは、重要な課題である。

学校や地域におけるスポーツ活動には、次のような問題が生じている。

①施設の自由化、共有化、複合化の利用。②選択度の高い、ジャンル別情報の提供。③人材の相互活用　④人間交流としての連動化　⑤個人化支援を基本とした柔軟な学社連携による運営。以上の中から本研究では⑤を解決するために問題としてとりあげた。

Ⅱ、研究の目的

学校でのスポーツ活動を、地域と連動させて三世代が交流できるスポーツ活動にするよう、そのネットワーク化をはかる。

Ⅲ、実践研究の視点

河辺等の提言をもとに「変化」の様相を、①個の時代　②多元的価値観の受容　③自遊の三点を実践化の視点とした。

Ⅳ、研究の方法

1、実践課題

目的を達成するため主題へのアプローチを、次の三つの課題とした。

課題1、地域社会でのスポーツ活動を学校の昼休みに自由遊びとして導入する。

課題2、自遊を基本とした新しい価値観によるクラブ活動の展開

課題3、地域社会でのスポーツ活動に学校のスポーツ活動を連動させる。

2、課題解決の手順

課題解決をするために、企画戦略による次の手順を踏んだ。

(1)企画にあたっての作業の手順化をはかった。

(2)テーマ・コンセプト・期待効果を明確化した。

3、実践の対象

(1)船橋市薬円台公園を中心にした地域の生活者

(2)船橋市立薬円台小学校の児童・教員

4、モデル校の選択理由

(1)地域の生活者が活動をしている薬円台公園と隣接している。

(2)校庭の空間がフライング・ディスク・ゴルフに利用しやすい環境にある。

5、実践の日程と場所

課　題	実　践　日　程	場　所
課題1	平成元年5月提案　平成元年6月～現在継続中	薬円台小学校
課題2	平成3年10月提案　平成4年5月～現在継続中	薬円台小学校
課題3	平成4年7月提案　平成4年9月～現在継続中	薬円台公園

6、フライング・ディスク・ゴルフを取り上げた理由

(1)子どもから高齢者まで気軽にできる。　(2)個人のスポーツである。

(3)個と個でチームをつくれば、ゲームが楽しめる。(4)ディスクが安価である。

(5)投げて飛ばす快感を味わうことができる。

(6)能力差があってもハンデキャップをつけて、同等に競い合える。

(7)現状の空間をそのまま利用できる。

V、結果と考察

1、企画の提案

「実践研究の視点」を基本に、各課題達成のための企画をし、仕掛けた。企画者は地域でのスポーツ活動の実践者であり、支援者を兼ねていたため、提案の承認が得やすかった。対象が公立学校であるため、教育委員会サイドの理解を求めてから校長に提案する二段階方式の方法論は有効だった。

2、実践活動の展開

(1)コンセプトメーカーとしての機能

実施計画の段階では、企画のコンセプトに基づいて展開できるよう学校側とコンセンサスを得て、支援者がコンセプトメーカーとしての機能をはたした。

課題1の事例；昼休みの自由遊びでは「列に並ばせて投げ合わせて欲しい」との学校側からの申し入れに対して、コンセプトが「自遊に楽しむ」であるため自由隊形による「自遊」を基本としてすすめる合意を得た。その結果、一年後の調査では「自遊で楽しかった」との期待効果が得られた。

(2)実践活動の結果

「自遊あそび」が活発になり、「校外活動」や「授業」でフライングデスクを活用する教師が出はじめたり、教師も一緒になって楽むようになった。更に自遊性が発展し、父兄も参加して楽しむ等今までとは異なった価値観による、クラブ活動が発足した。さらに、9月12日の土曜日には子どもや父兄、高齢者の三世代が一緒になってフライング・ディスク・ゴルフを楽しむ段階にいたった。

VI、ま　と　め

従って、各企画の「期待効果」をほぼ満たすことができ、さらに課題1～3は全て達成され主題の「地域と学校のネットワーク化」を目ざす戦略が実現に向かって前進した